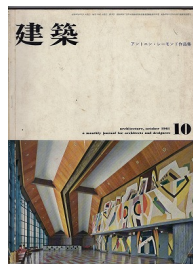
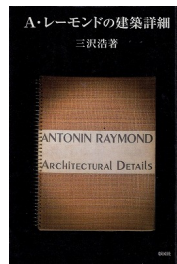


アントニン・レーモンドの作品とディテール

ANTONIN RAYMOND Architectural Details の本が、幾度かの引っ越しをともにし、この地に落ちてから長い時間が経ち書棚に横たわっていました。少し大型の本なので少々邪魔なのですが、気になる本なので手元に置いておきました。

最近、本を整理しようと思い、この本をなんとなく手にとってパラパラとページを捲ってみました。英文が2ページあるのみで見開きページに写真と詳細図が掲載されていて、このパターンで残りのページも同様となっています。

ネットでレーモンドの書籍をチェックしたら「A・レーモンドの建築詳細」のタイトルで三沢浩氏が書かれた本があることを知り、図書館で借り出し読み始めました。



A・レーモンドの建築詳細 レーモンド作品集集 レーモンド木造建築集

三沢氏の解説は ANTONIN RAYMOND Architectural Details に沿って話されているようです。解説している部分を原本のページを捲ってみるとそれと同様の写真と詳細図がありました。

建築設計事務所で入所したてのころは、矩計図や詳細図を描くにあたってどこからどのように描けばよいか分からないので参考資料の詳細図集を見ながら描き覚えてゆきました。三沢氏の解説を読みながら、こうしたディテールは当時レーモンや事務所で開発されたディテールだということが解かってきました。それは木製建具やスチールサッシュの敷居・鴨居。左右の縦框の収まりや RC の陸屋根の防水の収まり、そして間仕切り建具の床に対してフラットな敷居と鴨居、障子の棧割などは今に繋がっています。また吉村事務所の作品でもレーモンドの詳細仕様の影響がみられます。

学生時代からレーモンドの作品に興味をもち作品を見て歩きました。

・最初に出会ったのが学生時代に軽井沢で合宿をし先輩達と↓「**軽井沢の聖ポール教会**」に見学に行きました。



1934年建築

エキゾチックな姿をした建物は戦前に出来た建物とのことでびっくりです。小ぶりの建物で中に入ると丸太で合掌風に組まれた構造や姿が日本の民家や納屋の雰囲気や牧歌的な軽井沢の地にマッチしています。

・次に見たのは東京女子大の門を入ると、正面の**本館**↓と右わきに聳える↓「**東京女子大チャペル**」がありこれら他レーモンドは全7棟設計しています。



1931年建築



1938年建築



チャペルは内外コンクリート打ち放し仕上げにカラフルなステンドグラスがはめ込まれた建物です。今ではコンクリート打ち放し仕上げは普通になっていますが、レーモンドと事務所の人たちは苦勞してこの技術開発をしてきたと三沢氏は解説しています。

この建物はフランスの建築家ペレーの設計した教会のコピーだといわれていますが、レーモンドはペレーに手紙を送り、ペレーから敬意を表した手紙が届いているということです。

・当時竹橋にあった↓「リーダーダイジェスト」の建物は、解体されてパレスサイド・ビルディングとして毎日新聞・リーダーダイジェストなどによる合同ビルとして建設されました。その後リーダーダイジェストは撤退をしています。



1949年建築

平面・立面はシンプルな表現の建物で気持ちがよいデザインでした。構造・コンクリート・大型のスチールサッシュ・深い庇・鉄製のブリーズソレイユなど、そして冷暖房はヒートポンプ方式を採用するなど、当時画期的なビルでした。

・また軽井沢に戻ります。軽井沢に建てた「レーモンドの夏のアトリエ」↓を見学しました。12角形の平面に左右に長方形が接続する平面形です。12角形部分はアトリエとダイニングで中央に大黒柱としての機能を持つ暖炉が据えてあります。内部の構造は何軒も試みている丸太を組んだ柱梁が暖炉から12の方向に延びています。



1962年建築？

・更に軽井沢町塩沢湖「軽井沢タリアセン」内にある「夏の家」↓（現・ペイネ美術館）を見学しました。



1933年建築

この建物は事務所の夏のアトリエとして作られたそうです。この建物が雑誌に発表されるやコルビジユエから盗作だと激怒の手紙が来たという。レーモンドは雑誌に発表の際に、コル設計の平面だと注釈をつけることを約束したそうです。

・日光の東照宮に行った際、中禅寺湖にある「旧イタリア大使館別荘」↓に立ち寄りしました。湖畔にあり居間のパノラマ窓から湖が一望に広がる景色が素晴らしいです。

レーモンドは日本の民家に使われている材料を積極的に採用しています。外壁には杉皮と板が市松に張られています。内部の暖炉には玉石が積まれ、天井も六角形に竹の竿縁を組み杉皮が張ってあります。ちょっと特異な材料ですが、調和のとれたデザインとなっていました。



1928 年建築

・高崎市美術館の敷地内にある「旧井上房一郎邸」↓ この建物は自邸を焼失してしまった井上氏は、「レーモンドの自邸」を自宅で再現しようと計画をし、レーモンドの快諾を受けています。



1952 年建築

・札幌の↓「札幌聖ミカエル教会」札幌の道路は縦横に区画されていて地番を見ればどこか解かると言われていますが、私は土地勘が悪いのか地図を見ながら探したのですが建物が見つからない。ようやく遠くに教会らしい姿が見え辿りつきました。建物は丸太組の構造で屋根面が中折れになっています。窓には奥さんのノエミがデザインしたステンドグラスのイメージで和紙張りの表現が印象的でした。



1960 年建築

以上 9 軒、レーモンドの作品を学生時代から機会を見つけて巡ってきました。今回久しぶりにレーモンドの作品を思い出して見ましたが、思いのほかいろいろの手法で作品を手掛けていたことに感銘しました。2 2.9.6

※書籍の写真以外の写真は、建築家レーモンドで google 画像検索からコピーした写真です。